授業紹介「音楽科教育法」

音楽科教育法担当 古山　典子

音楽科教育法は、小学校教育において、音楽の何を教えるのか、音楽によって何を教えるのか、そしてそれをいかに教えるのかについて学ぶ授業です。この授業では、講義とともに学生による模擬授業を行っています。

模擬授業では、学習指導要領に示されている歌唱共通教材を学生に実際に指導してもらいます。学生たちは、苦労しながらも自分なりの指導内容と指導法を考え、試しているようです。模擬授業を通して、文言だけではイメージの湧かない指導法を様々な工夫によって具体化し、その指導の何が効果的で、どのような問題点があったのかを、全員で共有しながら学んでいきます。

一方、講義では、音楽科教育の概論をはじめとして、指導のネタなども提供するよう心掛けています。学生たちが教育実習に出向いた時、あるいは小学校教諭となった際に、音楽指導のヒントとして蓄えてもらい、それを手がかりに自分の音楽指導が展開できるようになることを願っているからです。

1つの楽曲でも、アプローチの仕方は様々です。アプローチの仕方は、「子どもたちに何を教えたいのか」によって決定されます。ただ単に学習指導要領に書かれているから教える、教科書にあるから扱うという姿勢では、学校で音楽を教える意味を見出すことは困難です。この「音楽科教育法」を通して、学生のみなさんには、学校でこそできる音楽経験が何かを考え、音楽の授業をいかに有意義なものにできるのかということに、真剣に向き合ってほしいと思っています。

Point

音楽の基礎的な知識だけではなく、どのように子どもたちに音楽を教えればよいかということを学ぶことができました。
（2年　東智子）

Point

鑑賞活動の例としてやった音楽を聴いてイメージし、曲名を当てるというクイズがとても印象に残っています。先生のお話をうかがったり、学生の模擬授業を受けたりする中で、学習すると同時に、大分自分なりの考え方も持てるようになってきたかなと思います。
模擬授業は、一人一人の個性が出ていてとても楽しいです。
（2年　乙倉里衣）

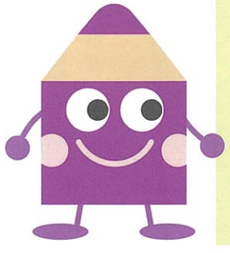
2010年度

就実大学初等教育学会公開講演会開催予定

元綾川町立綾上中学校校長の竹下和男先生をお迎えし、「弁当の日がやってきた　～地域と家庭と学校の連携～」という題目で、初等教育学会主催の講演会を開催します。講演者の竹下和男先生は、「自分が食べるものを自分の手で作る」という「弁当の日」を小・中学校で実践し、保護者・地域ぐるみの食育を実践されてきた教育者であります。学校と家庭と地域が連携し協働で行なう取り組みの難しさとその効果について考える機会にしたいと考えています。
ふるってご参加ください。

日 時 ： 2010年11月27日（土）
　　14：00～16：00
場 所 ： 就実大学R館5階　R601講義室
講 師 ： 竹下　和男 先生
　　（元香川県綾川町立綾上中学校校長）
演 題 ：「弁当の日がやってきた
　　～地域と家庭と学校の連携～」
その他： 入場無料
　　予約の必要はありません

編集後記



今まで07年度生の先輩方が中心になって編集してきた『色えんぴつ』ですが、今回より08・09年度生が引き継ぎました（といっても、レイアウトは先輩方が引き受けてくださったのですが）。いかがでしたでしょうか。よりよい紙面を目指してがんばりますので、ご意見ご感想をお寄せください。また、10年度生の編集委員も募集しています。

学生編集委員

3年生　古川雄一、国正耕一郎、
2年生　乙倉里衣、日笠由貴、
　　東　智子

教員編集委員

竹中伸夫、原奈津子、本田真美、村田恵子

色えんぴつ
初等教育学科だより
就実大学人文科学部初等教育学科
〒703-8516 岡山市中区西川原1-6-1
TEL.086-271-8111（代表）
2010年 10月1日発行
第7号
http://www.shujitsu.ac.jp/web/department/cultural/elementary/index.html E-mail:shotou@shujitsu.ac.jp

入学にあたって

初等教育学科1年 山下　明日香

4月1日、あいにくの雨でしたが、新しいスーツに身をつつみ、これから始まる大学生活への期待と不安を胸に抱えながら就実大学の入学式を迎えました。緊張しているうちに、あっという間に時間が過ぎていきましたが、押谷学長のお話を聴いて、勉強やサークル活動など、これから始まる大学生活を充実させていきたいと強く思いました。

入学式が終わると、グリークラブの先輩たちと吹奏楽の先輩たちによるコンサートが始まりました。どちらも、とても素敵でした。演奏する先輩たちの、いきいきとした楽しそうな様子も、印象に残っています。

大学は、高校とは違い、わたしたち学生に多くの自由が認められています。これからの4年間を意味のあるものにできるかどうかは、自分次第です。自ら学ぶ意志を持って、何事にも積極的に取り組んでいきたいと思っています。

就実大学の学生としての、一日一日を大切に、充実した毎日を過ごしていきたいと思います。

親子ふれあいタイム

初等教育学科3年 古川　雄一

私は、毎週金曜日（第二金曜日は除く）、親子ふれあいタイムにボランティアとして参加しています。そこでは、子どもたちと遊ぶことを通じて、授業で学んだ子どもの発達を再確認することができます。たとえば、私はさまざまな月齢の赤ちゃんの動きを真似るようにしていますが、こうすることによって、運動能力の発達を、自分の体を通して確認することができます。

また、お母さんやお父さんとも、気さくに声をかけていただいたり、世間話をしたりしています。子どもとかかわるボランティアの機会は多くありますが、親御さんとかかわることができる場は少なく、子育て支援・親支援の現場体験として、親子ふれあいタイムは貴重な場になっています。

このボランティアに参加しようと思った理由は、実習だけでは実際の子どもと関わるコミュニケーション能力の向上は難しく、また、座学だけではいけないと思ったからです。授業が親子ふれあいタイムと重なって、ボランティアとしての参加が難しい人も多いと思いますが、もし時間があれば皆さん気軽に参加してください。

研修旅行に行って

初等教育学科1年 山口　詩織

4月16、17日、初等教育学科1年生80人と先生方で、神戸・京都に研修旅行に行ってきました。入学してから間もないこともあり、初めはぎこちない空気もありましたが、事前の準備や旅行中の交流をとおして、同じ学科の仲間同士仲良くなり、良い思い出を作ることができました。

一日目は、神戸にある「人と防災未来センター」を見学し、震災の恐ろしさと共に、神戸の復興を支えた人々のつながりについて考えさせられました。夜は、事前にグループに分かれて準備してきた出し物を披露したり、先生方も交えて「猛獣狩りに行こうよ」「貨物列車」等のレクリエーションをしたりして楽しみました。

二日目は、班に分かれて、「お守り探しの旅」など、それぞれのテーマにそって京都を歩き巡りました。

楽しい研修旅行はあっという間に終わってしまいましたが、仲間と一緒に大切な時間を過ごすことができました。名前も知らなかった人と友だちになったり、先生方の、講義では見られない一面を見ることができたり、学外活動ならではの経験ができたと思います。切磋琢磨しあう仲間でもあるみんなと、楽しい大学生活を過ごしていきたいです。

第3回 初等教育学科運動会報告

初等教育学科2年 佐々木　香織

去る6月12日に、第3回初等教育学科運動会を行いました。初等教育学科の1・2年生が主体となって企画・運営するもので、今年度私は、その実行委員長をつとめさせていただきました。自分が一年生の時、先輩方が企画・運営してくださった第2回の運動会がとても楽しく、先輩方や同級生たちと交流を深めることができたので、自分が2年になったら後輩たちにもこの楽しさを伝えたい、何より自分がまた楽しみたい、そう思って実行委員長に立候補しました。

みんなの先頭に立って引っ張る経験がこれまで少なかったため、自分にうまくできるかという不安もありましたが、同級生や後輩たちの協力もあり、無事当日を迎えることができました。当日は団体競技や個人競技もさることながら、最後に行った「ウルラ」というレクリエーションによって、学年を越えた交流ができ、非常に有意義な時間を過ごすことができたのではないかと思います。

今回の運動会の実行委員長の経験を通じて、企画することのむずかしさ、準備することの大変さ、責任ある立場に立つことの重圧、協力してくれる仲間の大切さを改めて感じることができ、いい経験となりました。

この運動会が来年以降も引き継がれ、将来の入学生たちが楽しい学園生活を送ることができる手助けとなる行事として存続していくことを願うとともに、協力してくれたすべての人々の感謝の気持ちを表明し、筆をおきたいと思います。

2

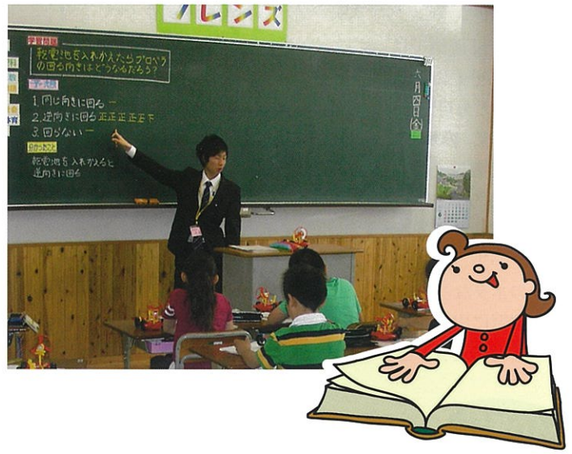
小学校教育実習を通して学んだこと

初等教育学科4年 山本　梨紗子

5月中旬から6月にかけての4週間、小学校での教育実習にいってきました。

私の担当学年は2学年、学級の人数は40人でした。40人という人数に対する不安、指導案作成への不安、授業に対する不安など、様々な不安を抱えて始まった実習でした。

今まで経験した保育所や幼稚園での実習と大きく違うのはやはり「授業」があるということ。私は4週間の中で、国語、算数、音楽、道徳の授業を計6時間させていただきました。授業展開や時間配分、子どもの発言への切り返しなど、授業を行うことの難しさを身にしみて感じました。失敗のなかった授業など一つもありません。しかし、自分の授業の中で見られた子どもたちの生き生きとした表情や笑顔は、たとえ一瞬であっても嬉しく、私にとってはそれが本当に大きな力になりました。また、失敗ばかりに目がいき、なかなか自分の成長を感じられない私でしたが、先生方の温かい言葉や思わず笑顔がこぼれるような子どもたちの声を聞けたことで、自分では気づけなかった成長に気づくことができました。授業を行ったのは私1人でしたが、授業をつくったのは協力してくださった先生方や子どもたちでもあると強く感じ、感謝の気持ちで一杯になりました。沢山の悩みもありましたが、それ以上の多くの発見や喜び、学びのある本当に貴重な実習になりました。



ゼミ紹介 佐藤ゼミ

初等教育学科3年 古川　雄一

「婚活」「母性神話」「家族」…今期、佐藤ゼミで取り上げられたテーマの一部です。これらのテーマに関する文献講読やゼミ生同士の討論を通じて、異なる視点から考えを深めていくことができ、大いに刺激を受けました。なにより、佐藤先生のお話の中に、今後教育者・保育者になるにあたって参考になることがたくさんあります。

佐藤ゼミのユニークな点は、ゼミの活動が文献講読だけに終わらないところです。今期は、佐藤先生vsゼミ生で缶蹴りをしました。佐藤先生がオニとなり、3回勝負を行いましたが、結果はゼミ生の完敗です。一度も缶を蹴ることができませんでした。この日のゼミは楽しいひとときでしたが、もちろん、ただ遊んだだけではありません。子どもの遊びを再体験することで、遊びの発達的意義について考えることができました。

3